

SAPソリューションとの連携が強化された 「BusinessObjects XI 3.0」

BIソリューションの世界的大手であり、2007年にSAP傘下に入ったビジネスオブジェクトツから「BusinessObjects XI 3.0 (ビジネスオブジェクト エク্সアイ)」がリリースされた。レポート、クエリー/分析、予測分析などの機能に加え、SAPソリューションとの連携が強化された同製品は、企業の重要な意思決定を支援するBI活用のプラットフォームとして大きな注目を集めている。

「BusinessObjects XI 3.0」は、企業内外に散在するデータを統合し、自在な分析活用やレポート作成を支援する次世代BIプラットフォームである。これまでさまざまなベンダーから提供されてきたBI製品は、「使い方が難しい」「分析手法が平準化されていないため、結果にばらつきがある」などといった理由で、普及が進んでいなかった。これに対して同製品は、分析データの質を高めるとともに、優れたユーザビリティを提供する各種機能により、経営者層からマネジメント層、現場レベルまでが活用できるように設計されている。これにより、全社レベルでの目標管理が容易になり、意思決定のプロセスもより明確化される。

卓越したユーザビリティを備えた 次世代BIプラットフォーム

「BusinessObjects XI 3.0」は、レポート・帳票ツールの「Crystal Reports 2008」、Webベースのデータ分析ツール「Web Intelligence」、ダッシュボード開発ツール「Xcelsius」、ユーザーのデスクトップ上にドキュメントを表示させる「BI Widgets」、OLAPデータの操作ツール「Voyager」、ExcelやWordをインターフェースにして分析が行える「Live Office」など、さまざまなコンポーネントから構成されている。

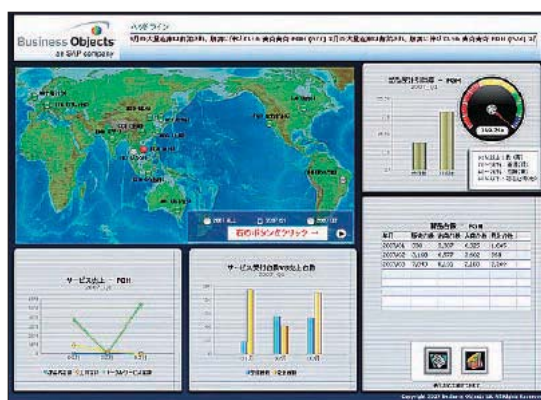
なかでも「Crystal Reports 2008」は、企業内におけるレポートの分散を防ぎ、管

理負担を軽減する高度なレポート機能を提供する。強化されたレポートのデザイン機能も、業務の生産性向上に効果を発揮するはずだ。また、データのマッシュアップを実現し、たとえばXcelsiusと連携させることで、ユーザーはレポート内からWhat-if 想定分析を対話形式で行ったり、グラフの変化を動的に表すインタラクティブなレポートも可能になった。

SAPソリューションとの 親和性が全社的なBI活用を促進

最新リリースでは、SAPソリューションとの親和性も高まっている。特にSAP NetWeaver BIとの連携では、最新ユニバースの表示が可能になったほか、SAPメタデータの更新、SAP NetWeaver BIオブジェクト、フォルダ、クエリーフィルタの挿入、重要な数値計算のサポートなどを反映させることができるようになった。また、レポート配信機能を使えば、パーソナライズされたSAPレポートを一斉に配信することができる。これにより、SAPデータの全社的な活用はさらに加速される。

全社規模での導入のしやすさとシステムの管理機能が強化されている点も、SAPユーザーにとってメリットとなる。リポジトリ複製機能は、ある1つの導入環境で作成されたコンテンツ、ユニバースオブジェク



「BusinessObjects XI 3.0」のグラフィカルなダッシュボード。
製品情報の詳細は、
<http://japan.businessobjects.com/product/catalog/xi/>

ト、レポート、書式設定などを、反復スケジュールで別の環境にコピーすることができる。これにより企業は複数の拠点で、同じ環境、同じ情報を共有、交換できるようになる。さらに管理面でも、プラットフォームの監視機能のほか、BIシステムの管理者を支援する管理コンソールの機能も大幅に強化されている。

ビジネスオブジェクトツでは、SAPの傘下になった後の両社の製品ポートフォリオについて、「パフォーマンス最適化アプリケーション」と「BIプラットフォーム」が2本柱になると説明しているが、「Business Objects XI 3.0」が後者を支えるメジャーリリースであることは言うまでもない。SAPソリューションとの連携が強化された同製品によって、これまでBI活用の促進を阻んでいたさまざまな課題が解消されるはずだ。